

# 花飾りによる道路空間のおもてなし・華やかさ演出に関する取組み (大阪市御堂筋の例)

株式会社建設技術研究所 ○ 今 井 優 希  
阿 部 正 太 朗  
豊 嶋 尚 子

## 1. はじめに

大阪市では、車中心のみから人中心のみちを目指し、大阪のメインストリートである御堂筋において「御堂筋将来ビジョン」を策定している。その状況下、2025年大阪・関西万博をめざして「みちの未来を体験」をテーマに「御堂筋サテライトプラン」を計画している。2023年度に「御堂筋チャレンジ2023」と称した実験の一環として、おもてなし環境づくりをめざした花飾り（ハンギングフラワー等）の設置を御堂筋2区間の歩道の花壇で実施し、万博機運醸成の効果確認や環境整備・維持管理方法の検証を行った。

本稿では、花飾りによるおもてなし空間演出の取組みを紹介し、実験より得られた効果や今後の課題について報告する。

## 2. 実施内容

2023年11月に実施した「御堂筋チャレンジ2023」では、道路協力団体や御堂筋に関心を持つ有志団体（以下ボランティア）、沿道店舗と連携して花飾りの取組みを実施した。具体には、①花飾り設置（照明柱へのハンギングフラワー7か所、壁掛け式花飾り6か所及び花壇整備2か所）（図-1）②期間中の植栽の維持管理（灌水作業、花がら摘取り、欠損入替え、施肥、切り戻し、雑草処理）、③花のリユース（撤去時の花きの配布）、④広報活動（SNS運用、リーフレットの作成・配布（図-2）、紹介HPの作成・運用）を実施した。

期間中の取組みに対し、万博時のおもてなし環境整備検討に向けた効果検証を実施した。具体には、御堂筋歩道通行者及び沿道地権者等に対して花飾りの実施に関するアンケート調査を実施し、花飾りによる空間演出の取組みを評価した。加えて、ボランティアによる①及び②の作業について作業記録を残し、蓄積することで、今後の維持管理における課題を把握した。

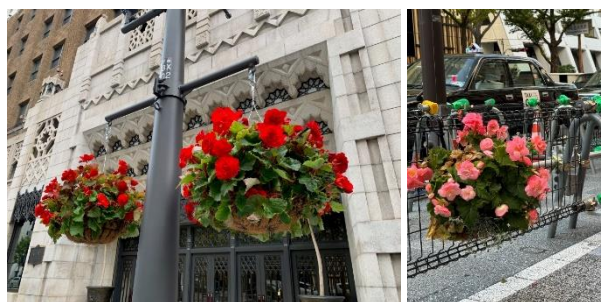


図-1 ハンギングフラワー(左) 壁掛け式花飾り(右)



図-2 配布したリーフレット

## 3. 効果検証

### 3-1. 歩道通行者による空間評価

御堂筋歩道通行者に対し、①調査員を用いた紙でのアンケート調査（2023年11月11月24～26日、30日の4日間）、②花壇に設置したQRコードによるWeb

アンケート調査(2023年11月18日~20日の3日間)を実施し、①では421件、②では62件の回答を得た。

回答者の属性をみると、女性の回答割合が高く、Webではその傾向がさらに強かった。また、Web回答者は60代・70代が約7割を占めていた。

アンケートの結果、「花」で通りを飾る手法によるおもてなし演出、御堂筋の印象を良くする・万博にふさわしい取組みであることへの肯定的な意見が96%以上を占めた。一方、壁掛け式の花飾りは、ハンギングフラワーと花壇に比べて華やかさを演出していると感じる人の割合は10%以上少なかった。これは、壁掛け式の位置が歩行者の視点より低い位置に設置されていたこと、周辺に違法駐輪や駐車車両があり視認性が低かったことなどが要因として考えられる。

### 3-2. 沿道地権者・事業者等による空間評価

御堂筋沿道地権者及び事業者等に対し、Webによるアンケート調査を実施し、46件の回答を得た。

その結果、花飾りの取組みが御堂筋のおもてなしを演出するという意見が98%、空間の高質化になる等の肯定的な意見が93%を占めた。一方で、沿道の憩い・滞在空間だと感じる割合は半分程度にとどまった。

また、花飾りを適切な状態に保つためには維持管理(花飾りの灌水等)が必要であることを課題と感じる割合は98%であった。しかし、御堂筋の高質化のために維持管理へ協力したいと答えた割合は57%にとどまった。この結果から、沿道地権者は花飾りの取組みについては賛同できるが、維持管理には協力が難しいという実態が明らかになった。

### 3-3. 花飾りの維持管理に関する作業記録

花飾りの維持管理は、ボランティアが2日に1回の頻度で実施した。花がらの摘み取り、ごみ拾いについては毎回行い、灌水や欠損の入れ替え、施肥、雑草処理は適宜実施した。作業ごとにGoogleフォームから作業記録を入力してもらい、ボランティア内での作業・現場の状況を共有した(図-3)。

1	本日作業を行った場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はり重前花壇、HIPS前花壇、はり重前ハンギング、HIPS前ハンギング、大丸前ハンギング：毎日</li> <li>・ 大丸前花壇：3日間(3回に1回程度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の気づき</li> <li>・ 灌水後、通行人に水が滴らないようガードする人員が必要。</li> <li>・ はり重前は奥へ奥へ散らしている。作業に大きなゴミ袋が必要だ。</li> <li>・ タバコの吸い殻が多い。</li> <li>・ 道路脇のプランが壊れていた。</li> <li>・ 株の抜き取りといった花壇へのいたずらはほぼなかったが、御堂筋前ランジの看板が引っこ抜かれていた。</li> <li>・ 花の世話をしていると声をかけてくれる人も多い。</li> </ul>
2	本日行った作業		
3	本日の作業人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3人：10日</li> <li>・ 4人：1日</li> </ul>	
4	本日の作業時間		
5	本日の現場対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴミ拾い：11日</li> <li>・ 注意喚起：3日</li> </ul>	

図-3 作業記録の集計

報告事項として、ハンギングフラワーへの灌水後、通行人に水が滴らないようにガードする作業員が必要であることや、花壇周辺等にゴミやタバコの吸い殻が散乱し清掃作業を要したこと、花壇内の看板が抜かれたこと等が挙げられた。一方で、ボランティアが花の世話をしていると通行人と会話が生まれる等の報告もあった。

## 4. まとめ

### 4-1. 花飾りによる道路空間の華やかさ演出の可能性

御堂筋チャレンジ2023では、利用者や沿道地権者等へのアンケート調査結果より、御堂筋における花飾りが万博や空間の高質化にふさわしいと感じる人が多いことを明らかにした。一方で、花飾りによって憩いや滞留空間になるという意見が少なかったことから、道路におけるさらなるおもてなし空間づくりには、花飾りを鑑賞するような場所の設え(滞在空間整備やライトアップ、壁面演出、歩行者動線の考慮等)が必要であると考えられる。

また、アンケート調査では、高齢者によるWeb調査への回答が多く、ICTツールを活用できる高齢者が花飾りに興味関心があることは新たな知見である。女性や高齢者による花飾りを通じた新たな御堂筋のファン作りやコミュニティ形成が今後期待できる。

### 4-2. 沿道植栽の維持管理における今後の課題

期間中、花飾りを適切な状態で維持できた要因の1つとして、作業状況の情報共有と関係者間の連携による取組み実施があげられる。

一方で、沿道地権者等にとっては、現状のまま花飾りの維持管理への協力は難しく、主に作業負担について指摘する意見が多くみられた。内容として、灌水を行う場合の時間捻出やホース等用品や水道の費用負担、悪天候時の撤去等の安全対策作業などである。

維持管理作業においても、ハンギングフラワーの灌水作業時の安全確保や配慮、花飾り周辺の清掃作業など多様な作業が生じた。作業時間など負担が増える場合は沿道店舗や道路協力団体等との役割分担が望ましいと考えられる。

今後は関係者連携による維持管理方法の検討や、空間を活かして収入を得ることで維持管理費を賄う仕組みなど、より広域的・長期的な維持管理スキームの検討が必要になる。